

妊産婦についての調査(III)

——慣習・言い伝え・迷信などに対する意識(1)——

谷山 和美・和田みどり*・藤田 光子

Researches on Pregnant Women and Nursing Mothers (III)

—The Attitudes toward Customs, Vulgar Beliefs and Superstitions(1)—

Kazumi TANIYAMA, Midori WADA and Mitsuko FUJITA

緒 言

妊産婦の衣服着用の実態と、妊娠・出産に関する慣習・言い伝え・迷信などに対する意識を知るため、全国7地区(1都, 1道, 1府, 23県)において、アンケート調査を行なった。そのうち腹帯について、地区別に集計整理し、着用の実態・腹帯の種類などについて検討し、広島文化女子短期大学紀要第15号に報告した。今回は全国について、妊産婦の慣習・言い伝え・迷信などに対する意識を検討したので、その結果を報告する。

調 査 方 法

アンケート調査の方法は、さきに報告した妊産婦についての調査(I)と同じである。すなわち、1976年3～5月までの間に、20～50歳代の経産婦を対象とし、各地区の保健所・大学などを通して依頼した。アンケート調査の内容は表1のとおりである。

また、地区別(7地区)、都・道・府・県(1都・1道・1府・23県)別例数・百分率は表2のとおりで、総例数は2,186例、回収率は94.4%である。

結果および考察

1. 安産の祈願について

(1) 安産の祈願をしましたか

「安産の祈願をしましたか」についてみると、図1-1のとおりで、「した」が51.1%、「しなかった」は45.4%、「無回答」は3.5%で、「した」ものは「しなかった」ものよりやや多い。

(2) 祈願をしたのは何か月頃ですか

(祈願をした1,108例を100.0%とする)

「祈願をしたのは何か月頃ですか」についてみると、図1-2のとおりで、「5か月」が最も多く38.0%、次は「3か月」で13.8%である。3～5か月が多いのは、この頃妊娠とはっきりわかるためと思われる。なお、「4か月」は12.6%、6～8か月は約21%で「1か月」は最も少なく0.6%である。

(3) 祈願に誰と行きましたか

「祈願に誰と行きましたか」についてみると、図1-3のとおりで、「夫と」が最も多く39.4%、次は「親と」で32.5%、「その他」は11.6%である。「その他」についてみると、おじ・おば・姉・妹などで、「自分だけ」は11.1%である。

2. 安産のお守りについて

(1) 安産のお守りを頂きましたか

「安産のお守りを頂きましたか」についてみると、図2-1のとおりで、「お守りを頂いた」が65.1%、「頂かなかった」は27.1%で、「頂いた」ものは、「頂かなかった」ものの2倍以上で非常に多い。「無回答」は7.8%である。

(2) 誰が頂いて来ましたか

(お守りを頂いた1,422例を100.0%とする)

「誰が頂いて来ましたか」についてみると、図2-2のとおりである。「親」が最も多く44.0%、次は「自分」で25.9%、「夫」は13.8%、「その他」は14.4%である。「その他」についてみると、おじ・おば・姉・妹・友人などである。

* 広島女学院大学短期大学部

表1 アンケート用紙
調 査 票 (II)

1. 安産の祈願をしましたか 1. した 2. しなかった

した方は、下の問に記入または○をつけて下さい。

いつ頃ですか →	か月頃
誰と行きましたか→1. 自分だけ 2. 夫と 3. 親と 4. その他 ()	

2. 安産のお守りを頂きましたか 1. 頂いた 2. 頂かなかった

頂いた方は、下の問に記入または○をつけて下さい。

誰が頂いて来ましたか→1. 自分 2. 夫 3. 親 4. その他 ()			
所持方法は→1. 祀った 2. 身体につけた 3. その他 ()			

3. 次の言い伝え・迷信について知っているものに○をつけ、その他に知っているものがあれば記入して下さい。

言い伝え ・ 迷 信	
1.	腹帯はいぬの日からまき始める
2.	妊娠中火事を見て身体に手を触れると子供に赤いアザができる
3.	妊娠中葬式をみると、子供に黒いアザができる
4.	妊娠中かまどをつくる（修理する）とみつ口の子が生まれる
5.	妊娠中便所の掃除をするときれいな子が生まれる
6.	お腹が前へつき出したら男の子である
7.	顔がきつくなったら男の子である
8.	鍋蓋の上で物を切ると難産する
9.	鯉の味噌汁は産後に良い
10.	産後チヌの吸物を食べると悪血が下りる
11.	米の粉ダンゴを入れた味噌汁は乳がよく出る
記 入 欄	

あなたは、迷信など気にしますか。

1. 気にする	2. 一応気にする	3. 気にしない
---------	-----------	----------

以下省略

表2 地区・都道府県別例数・百分率

地区別	都道府県別	例数		%
		都道府県別	地区別	
北海道	北海道	84	84	3.8
東北	青森	151	525	24.0
	岩手	75		
	宮城	99		
	秋田	51		
	山形	100		
関東	福島	49	384	17.6
	茨城	84		
	埼玉	52		
	千葉	54		
	東京	82		
中部	神奈川	112	232	10.6
	新潟	44		
	石川	81		
	福井	52		
近畿	静岡	55	80	3.7
	京都	45		
中国	奈良	35	450	20.6
	島根	51		
	岡山	42		
四国・九州	広島	357	431	19.7
	徳島	41		
	香川	101		
	愛媛	145		
	福岡	49		
	長崎	95		
	計	2,186	2,186	100.0

(3) 所持方法

（お守りを所持した1,395例を100.0%とする）

「所持方法は」についてみると、図2-3のとおりである。「身につけた」が最も多く44.0%、次は「祀った」で29.4%、「その他」は16.2%である。「その他」についてみると、「飲み込んだ」「バッグの中に入れて持ち歩いた」などである。

3. 言い伝え・迷信について

(1) 言い伝え・迷信について

「言い伝え・迷信」についてみると、図3のとおりである。1.の「腹帯はいぬの日からまき始める」が最も多く知られ94.6%、次は7.の「顔がきつくなったら男の子である」で92.5%、次いで2.の「妊娠中火事を

見て身体に手を触れると子供に赤いアザができる」は86.1%、6.の「お腹が前へつき出したら男の子である」80.5%、5.の「妊娠中便所の掃除をすると、きれいな子が生れる」71.4%の順で、以上いずれも95~70%が知っている。あまり知られていないのは、8.の「鍋蓋の上で物を切ると難産する」が6.3%、次は10.の「産後チヌの吸物を食べると悪血が下りる」で14.2%、次いで4.の「妊娠中かまどをつくる（修理する）と、みつ口の子が生れる」は18.7%で、いずれも20%以下である。このことは、鍋蓋の多くは木製から金物製に、かまどはガスや電気コンロにと変わったため、また、その土地であまりとれなくなったなど、言い伝え・迷信を忘れさせる傾向がみられる。

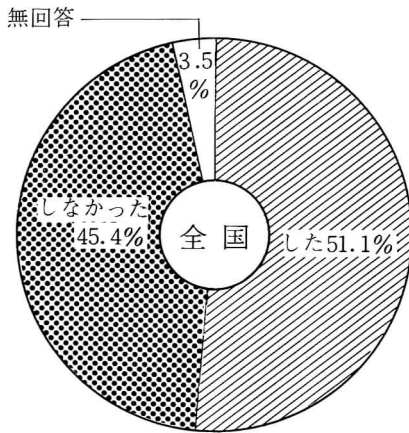


図1-1 安産の祈願をしましたか

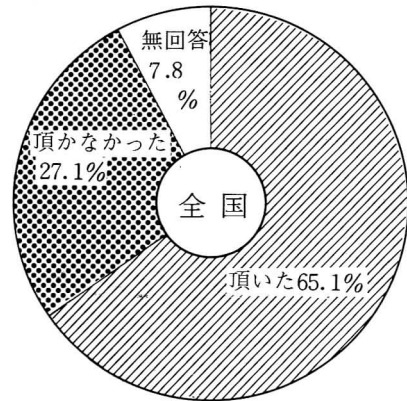


図2-1 安産のお守りを頂きましたか

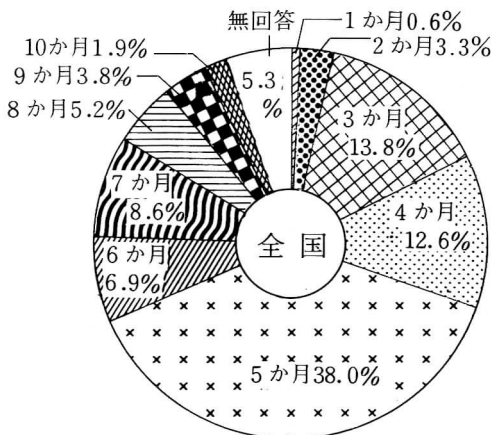


図1-2 祈願したのは何か月頃ですか

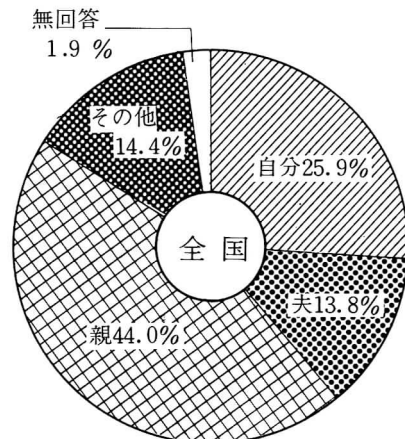


図2-2 誰が頂いてきましたか

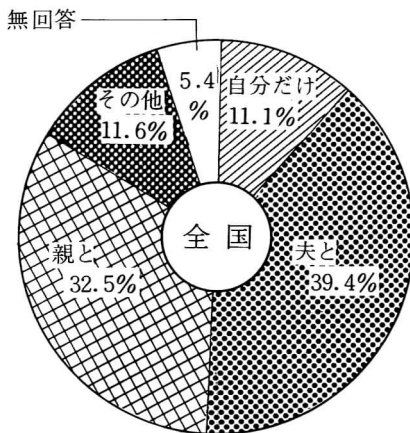


図1-3 祈願に誰と行きましたか

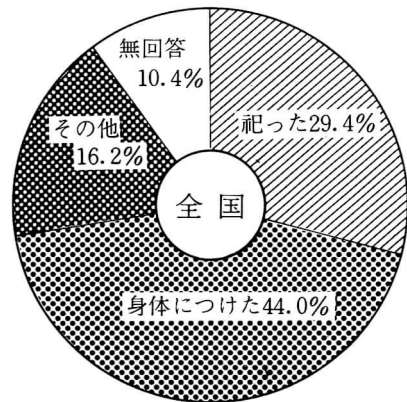


図2-3 お守りの所持方法は

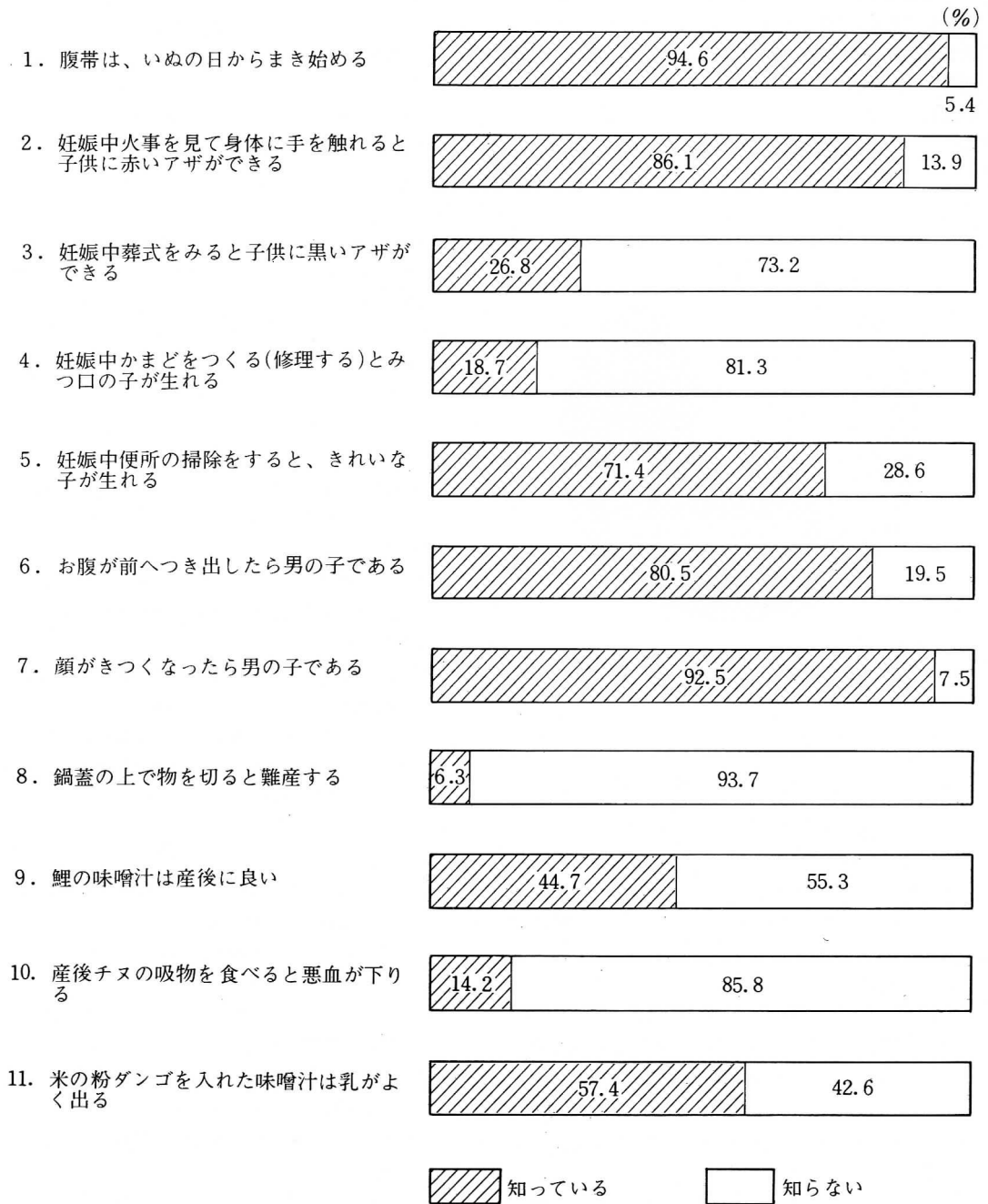


図3 言い伝え・迷信について

(2) 迷信など気にしますか

「迷信など気にしますか」についてみると、図4のとおりである。「気にする」が8.7%、次は「一応気にする」で54.4%、次いで「気にしない」は34.1%、「無回答」は2.8%である。

いずれにしても「気にする」ものは63.1%で、「気にしない」ものの約2倍である。

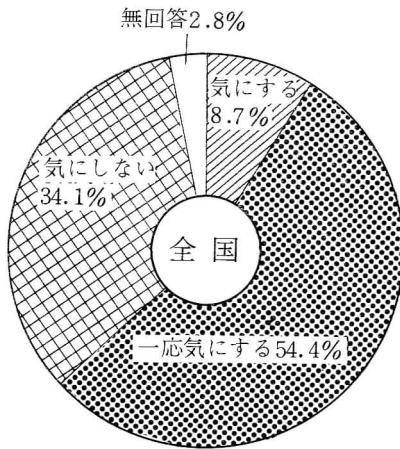


図4 迷信など気にしますか

結 語

以上の結果を要約すると、次のとおりである。

1. 「安産祈願をした」は51.1%、「しなかった」は45.4%で、「した」ものがやや多い。
2. 祈願をした月の最も多いのは「5か月」の38.0%、次は「3か月」の13.8%、「4か月」の12.6%で、3～5か月間に約65%のものが祈願をしている。これは、この頃妊娠とはつきりわかるためと思われる。また、6～8か月間は約21%で月が進むにつれて減少している。
3. 祈願には「夫と」が最も多く39.4%、次は「親と」で32.5%である。
4. 「お守りを頂いた」は65.1%、「頂かなかった」は27.1%で「頂いた」ものが多い。
5. お守りを頂いて来たのは「親」が最も多く44.0%、次は「自分」で25.9%で、次いで「夫」「その他」の順である。

6. 所持方法は「身体につけた」が最も多く44.0%、次は「祀った」で29.4%である。「その他」は、飲み込んだ・バッグの中に入れて持ち歩いたなどである。

7. 「腹帯はいぬの日からまき始める」は94.6%、「顔がきつくなったら男の子」は92.5%、「妊娠中火事を見て身体に手を触れると子供に赤いアザができる」は86.1%、「お腹が前へつき出したら男の子である」は80.5%で、知っているものが多い。

また、「鍋蓋の上で物を切ると難産する」は6.3%、「産後チヌの吸物を食べると悪血が下りる」は14.2%、「妊娠中かまどをつくる（修理する）とみつ口の子が生れる」は18.7%で、あまり知られておらず、現在の生活様式が、言い伝え・迷信などを忘れさせる傾向である。

8. 迷信など「気にする」が63.1%、「気にしない」は34.1%である。

今後、今回報告したものを地区・年代別に分類する一方、これ以外の言い伝え・ことわざなどについても検討したいと思う。

なお、「お腹が前へつき出したら男の子である」については、腹部関係項目の測定および妊産婦の姿勢などを検討中である。

最後に、このアンケート調査によく協力して下さいました各地区の保健所・大学、回答をお寄せ下さった方々、また、本研究に終始御懇切なる御助言御協力を頂きました元日本看護協会保健部神奈川県支部長伊吹マサ子先生に深く感謝いたします。

文 献

- 1) 松山栄吉 腹帯の効用とその疑義 助産婦雑誌 1968, 22巻, 9:40~48
- 2) 松永 勝 戌の日の腹帯 月刊ふくやま 1967, 3月号
- 3) 木下正一他 妊婦被服の周辺 母性保護医報 1971, 2月号, 6~7
- 4) 光岡栄子他 腹帯について 広島女学院大学短期大学部家政学会誌 1978, No17, 23~26
- 5) 森末義彰・日野西資孝編 風俗辞典 東京堂出版 1960, 35
- 6) 谷山和美他 妊産婦についての調査(Ⅰ)一腹帯 (1)一 広島文化女子短期大学紀要 1982 第15号, 17~24

Summary

In 1976, we made a questionnaire survey on the attitudes of pregnant women and nursing mothers toward customs, vulgar beliefs and superstitions about pregnancy and child birth. The present paper reports on the national tendencies. For our research procedure, see *Researches on Pregnant Women and Nursing Mothers* (1), *Bulletin of the Hiroshima Bunka Women's Junior College* Vol.15, (1982).

1. Those questionees who "prayed to God for easy delivery" were 51.1% and those who "did not pray" were 45.4%. No answer was obtained from the rest (3.5%).
2. Of those who "prayed," 38.0% offered a prayer in the fifth month of pregnancy and 64.4% were found to have prayed between the third and the fifth months. This is perhaps because they found their own pregnancy about this time. Those who offered a prayer between the sixth and the tenth months were 26.4%. The number decreased as the months advanced.
3. A great majority (83.5%) went to offer a prayer with their husband, parents, uncles, aunts, elder or younger sisters. Those who went alone were 11.1%.
4. Those who "got an amulet" were 65.1% and those who "did not get" were 27.1%.
5. Those who had their amulet brought from the shrine by "their parents" were 44.0%, then "by themselves" and "by their husband." The rest were by their uncles, aunts, sisters or friends.
6. 44.0% kept the amulet about their person and 29.4% offered it on the household altar.
7. Those who "minded" superstitions were 63.1% and those who "did not mind" them were 34.1%.
8. More than 90% believed in such vulgar sayings as "The first belly-band should be worn on the Day of the Dog" and "You can expect a baby boy if the mother has strong features." More than 80% believed in "The baby will be born with a mark on it if the mother meets a fire during her pregnancy" and "You can expect a baby boy if the mother has a protruded belly."